

空港における地震・津波に対応する避難計画・早期復旧計画 検討委員会（第1回）

議 事 概 要

日時：平成27年10月7日(水) 14:00～16:00

場所：中央合同庁舎第2号館1階 共用会議室3A・B

○ 委員長の選任について

- ・ 本検討委員会の委員長として、轟委員が満場一致で選任された。

○ 避難場所について

- ・ 高知空港における避難場所については、空港ビルへの避難が基本であると思われるが、津波到達までに時間があるのであれば、空港ビル以外の安全な場所への移動や、自動車での避難なども考えるべきではないか。
- ・ 東日本大震災の際、仙台空港では、早期復旧のために活躍する特殊車両が全て津波で廃車になったため、他空港から調達した。特殊車両については、高台等の安全な場所への避難を検討すべきではないか。
- ・ 仙台空港では、発災後6日間空港に避難者が滞在した。このように、避難者が旅客ターミナルビルのフロア一等を長期間占有することにより、運航再開に影響する可能性もあるため、二次避難先の確保や連携について検討すべきではないか。

○ 電源の確保について

- ・ 高知空港ビルの電源について、津波による浸水時に、バックアップ電源装置は上階に上げてあるため機能できると思われるが、ネットワーク系統は機能できるか。
- ・ 電力等について、災害発生から供給までの流れを時系列で整理すべきではないか。

○ 避難人数について

- ・ 現在、高知空港への避難対象者数1,090人と設定しているが、航空需要や空港利用者の増減などに対し、PDCAの中で全般について見直すべきではないか。

○ 新たな計画の構成について

- ・ 今回の計画（高知空港における地震・津波に対応する避難・早期復旧計画）は、地震編と地震・津波編が合わさった厚いものになる。現場で使用するにあたり、分冊の方が使いやすいといった意見はないか。
- ・ これまでの業務においても、一冊の中で災害毎の対応が整理されたものを使用しているが、混乱は生じていない。一冊にまとめる方向で良いのではないか。
- ・ 内陸部の空港では、第１（総則）、２（共通事項）、３編（地震災害）で構成し、地震・津波編である第４編は不要となる。沿岸部の空港では、第１、２、４編で構成するという理解でよいのか。
- ・ 新たな計画については、現場の人が使いやすいように、見出しやインデックスの工夫をお願いしたい。
- ・ 避難から早期復旧まで、誰が何をするのかが分かる行動計画の時系列での流れが分かるものが必要ではないか。

以上